
2011年3月期 決算説明会

2011年5月25日

綜研化学株式会社

説明内容

1. 当社グループの概要
2. 2011年3月期 連結決算
3. 2012年3月期 業績見通し
4. 商品ユニット別概要
5. 更なる成長に向けて
6. 結び

1. 当社グループの概要
2. 2011年3月期 連結決算
3. 2012年3月期 業績見通し
4. 商品ユニット別概要
5. 更なる成長に向けて
6. 結び

会社概要

- 会社名 綜研化学株式会社
- 創立 1948年9月2日
- 資本金 3,361百万円
- 株式公開 2001年4月
(JASDAQコード : 4972)
- 従業員数 単体 : 225名
(2011年3月末) 連結 : 904名
- グループ会社 国内 : 3社
海外 : 5社

経営理念

創業の精神

“技術を通して社会に貢献する”

経営理念

- 常に**誠実**であり、**創造と工夫に情熱と責任**を持つての挑戦
- 地球環境保全**の指向と社会に役立つ**革新的製品**の提供
- お客様の心からの満足**、**株主の方々の共感**、**社員の働く喜び**の実現

グループコンセプト

独創性ある研究開発・技術力により国内外に高機能・高品質のケミカルズを提供し、綜研化学が中核となってグループ企業の力を結集することで成長し続ける企業集団

当社の強み

コア技術

高分子合成技術

- ・ 分子設計
- ・ 粒子サイズコントロール
- ・ 無溶剤重合

重合装置技術

- ・ プラント設計
- ・ 大型翼攪拌装置
- ・ 熱媒体・熱媒ボイラー

機能発現・品質評価を追求する
研究開発力



装置・システム技術を生かした
生産技術力



機能・品質・低コストの徹底追求

事業内容

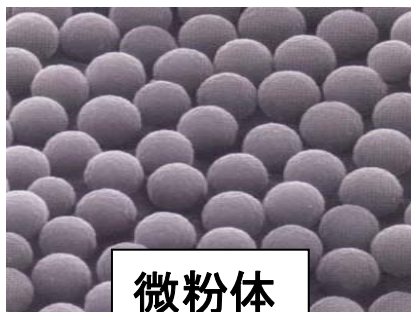
ケミカルズ



粘着剤

透明な合成樹脂溶液

用途: LCD他光学用、
両面テープ用、ラベル用



微粉体

ナノからミクロンの大きさ
の合成樹脂粒子

用途: LCD光拡散用、化
粧品用、トナー関連材料



特殊機能材

透明な合成樹脂溶液

用途: 電子回路材料、トナー
関連材料



加工製品

粘着剤を用いた製品

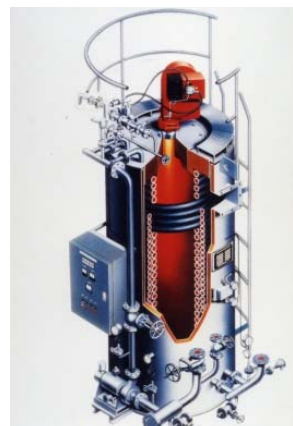
製品: 両面テープ、保護テープ

装置システム

大型翼攪拌装置(Hi-F)、
熱媒体・熱媒ボイラー、メンテナンス



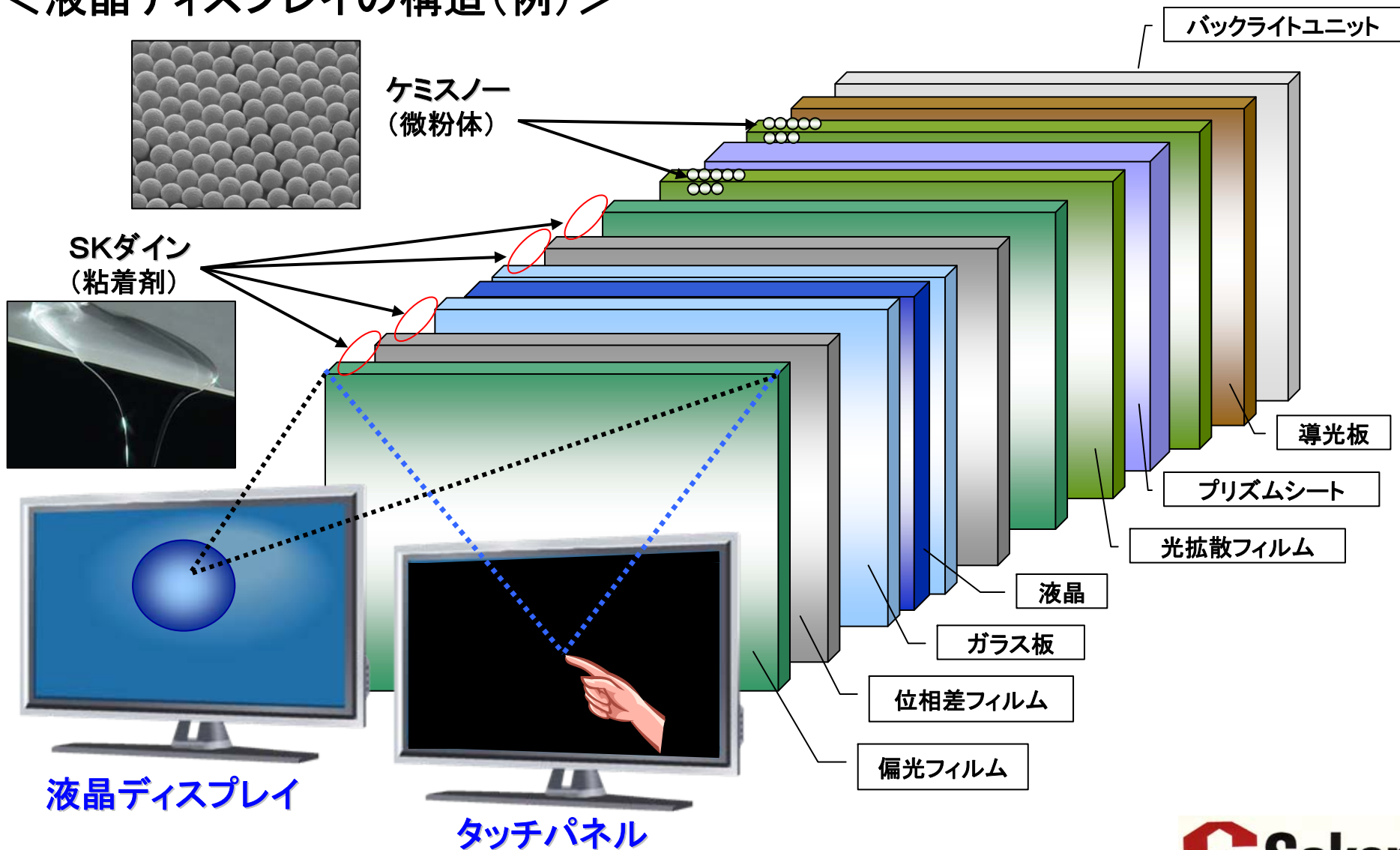
大型翼攪拌装置



熱媒ボイラー

粘着剤・微粉体製品の使用例

<液晶ディスプレイの構造(例)>



グループ会社の所在地(国内・海外)



盤錦遼河綜研化学



綜研化学(蘇州)



寧波綜研化学



Soken Chemical Asia

粘着剤新事業会社
(設立準備中)

Soken Chemical Singapore

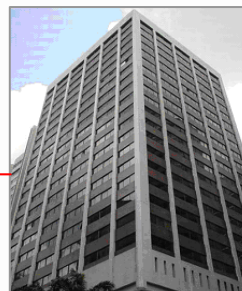
綜研化学
綜研テクニクス



狭山綜研



浜岡綜研



グループ会社（日本国内）

商品ユニット 会社名	出資比率	粘着剤	微粉体	特殊機能材	加工製品	装置システム
綜研化学	—	●	●	●	●	
綜研テクニクス	100					●
浜岡綜研	100	●	●	●		
狭山綜研	100	●	●	●		

 連結子会社

グループ会社(海外拠点)

会社名 \ 商品ユニット	出資比率	粘着剤	微粉体	特殊機能材	加工製品	装置システム
綜研化学(蘇州)(SSK)	100		●	●		
寧波綜研化学(NSK)	70	●			●	
盤錦遼河綜研(LSK)	45					●
綜研化学シンガポール(SCS)	100	●			●	
綜研化学アジア(SCAsia)	100	●			●	

連結子会社
 持分法適用会社

※ 常州綜研加熱炉(持分法非適用会社)は、2010年11月をもって日中合作解消

説明内容

1. 当社グループの概要
2. 2011年3月期 連結決算
3. 2012年3月期 業績見通し
4. 商品ユニット別概要
5. 更なる成長に向けて
6. 結び

2011年3月期 事業環境と取り組み

【事業環境】

- ・上期：LCD関連の需要が堅調に推移
中国市場は堅調に推移
- ・下期：LCD関連の需要は、在庫調整の影響から低迷
中国市場は堅調に推移
原油価格上昇に伴う原料価格高

【当社の取り組み】

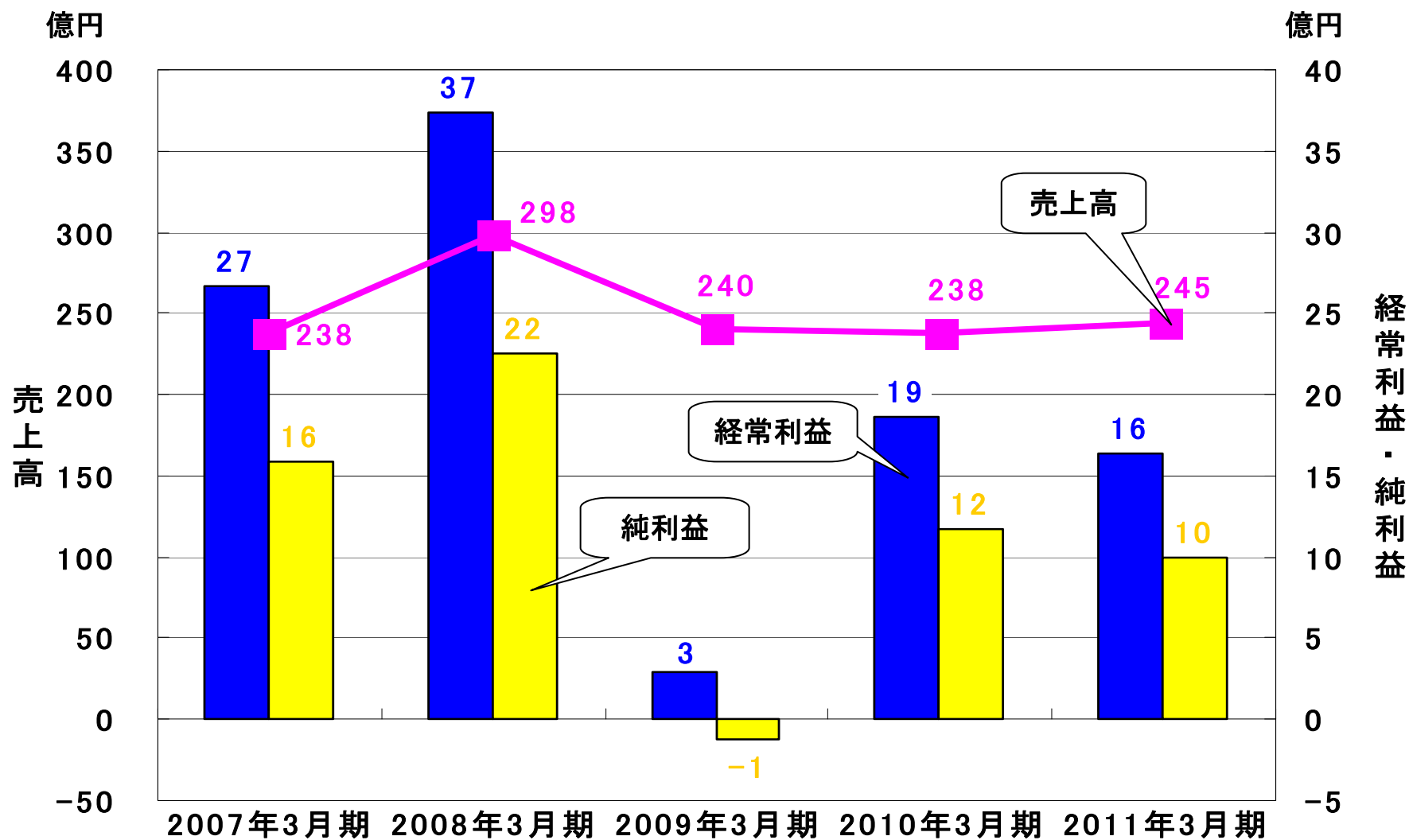
- ・LCD関連用途で高濃度型粘着剤の販売拡大
- ・積極的な営業活動による受注確保
- ・コストダウンの推進（生産効率向上、原材料使用量削減）
- ・設備増強による中国市場での販売拡大
- ・新規事業開発の積極的な推進

2011年3月期 連結業績

(百万円)

	2011年3月期	2010年3月期	増減
売上高	24,458	23,782	676
営業利益	1,706	1,849	△143
経常利益	1,634	1,857	△223
当期純利益	1,001	1,174	△173

売上高・経常利益・純利益の推移

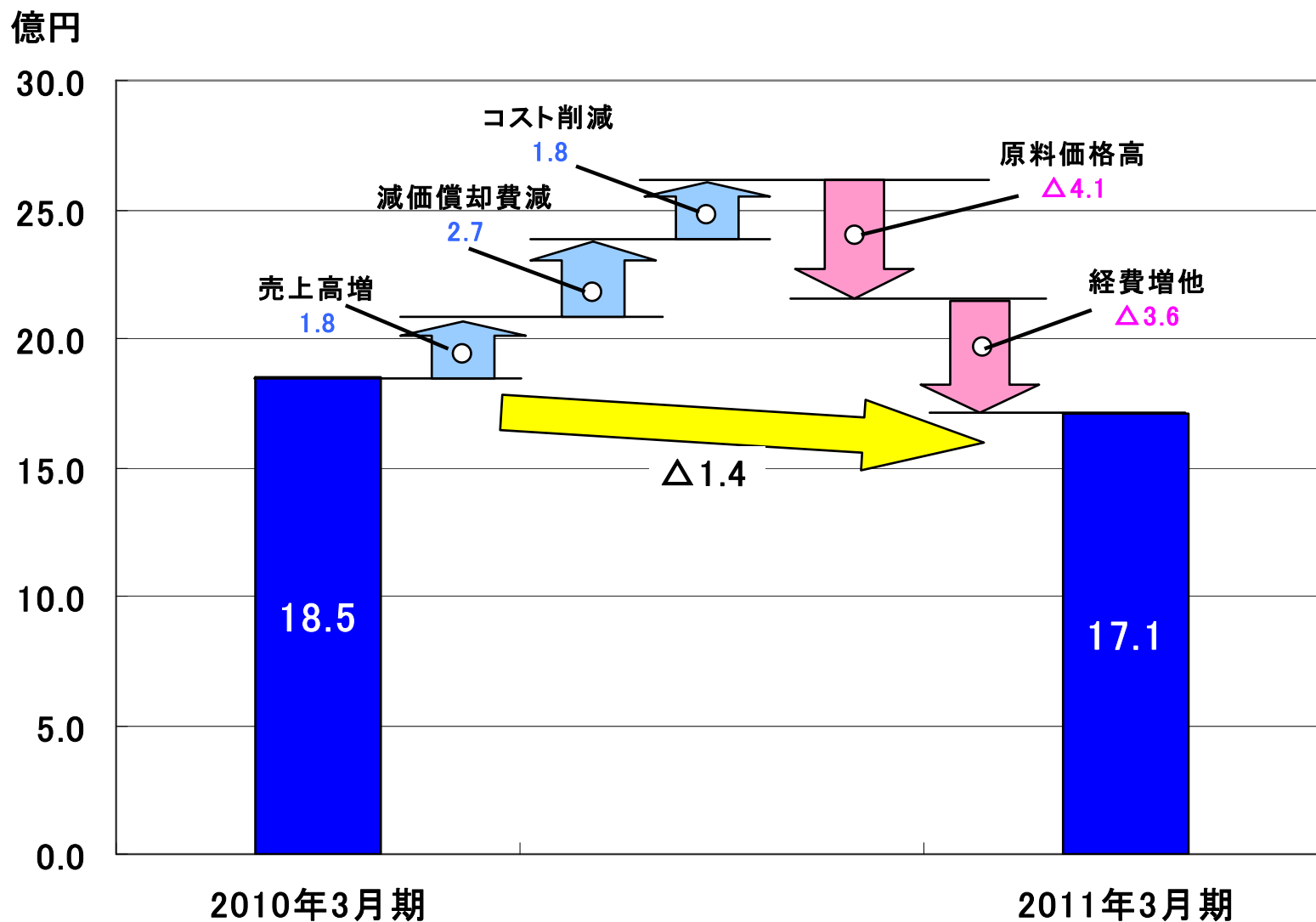


2011年3月期セグメント別売上高

(百万円)

	2011年3月期	2010年3月期	増減	%
ケミカルズ	22,014	20,470	1,544	7.5
粘着剤	12,370	12,644	△274	△2.2
微粉体	1,962	1,791	171	9.5
特殊機能材	3,656	2,736	920	33.6
加工製品	4,025	3,298	727	22.0
装置システム	2,443	3,311	△868	△26.2

2011年3月期 営業利益分析



資産の状況

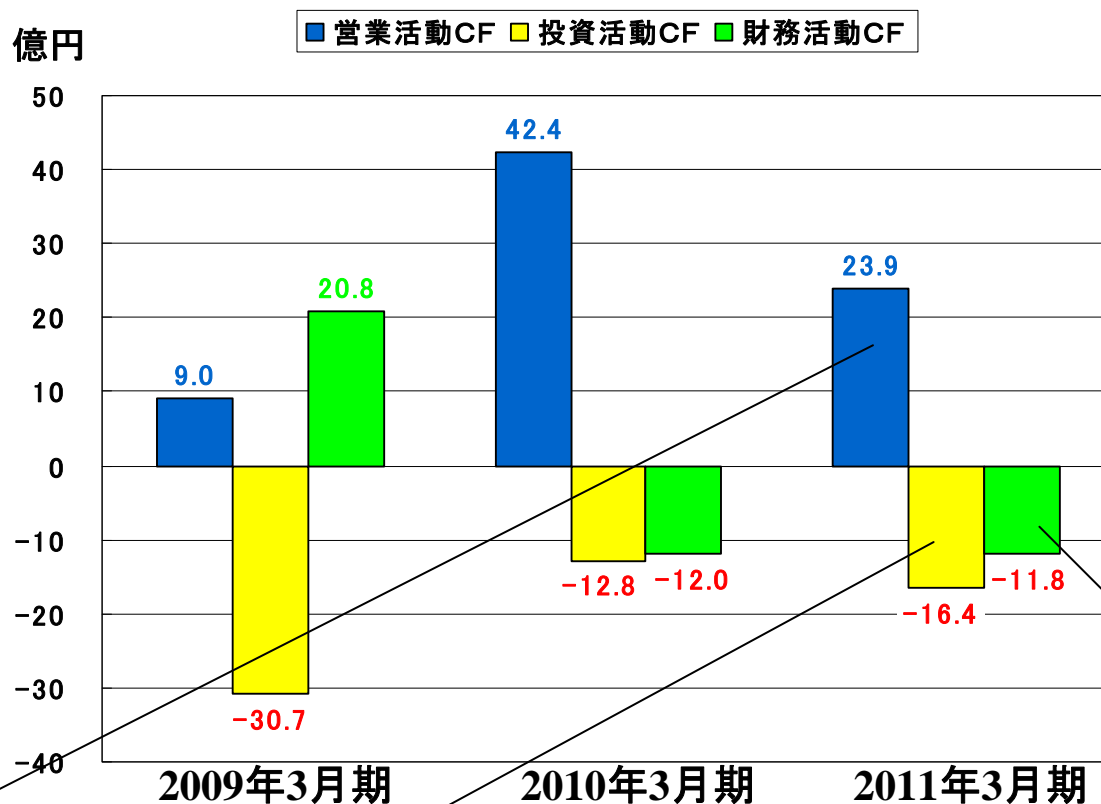
(百万円)

	11/3末	10/3末	増減
流動資産	14,242	14,409	△167
現預金等	3,254	3,718	△464
受取手形・売掛金	7,413	7,503	△90
棚卸資産	2,984	2,692	292
その他	591	496	95
固定資産	13,543	13,535	8
有形固定資産	11,468	11,590	△122
無形固定資産	157	216	△59
その他	1,918	1,729	189
資産合計	27,785	27,944	△159

負債・純資産の状況

	(百万円)		
	11/3末	10/3末	増減
流動負債	8,632	7,970	662
支払債務	5,615	5,372	243
短期借入金	1,190	693	497
その他	1,827	1,905	△78
固定負債	2,895	4,180	△1,285
社債	340	670	△330
長期借入金	988	2,112	△1,124
退職給付引当金等	1,567	1,398	169
負債合計	11,527	12,150	△623
純資産/資本	16,258	15,795	463
負債・純資産合計	27,785	27,944	△159

キャッシュフローの状況



【営業活動CF】

税前純利益 15.5億円
 減価償却費 16.7億円
 支払法人税 △6.0億円

【投資活動CF】

有形固定資産取得 △14.6億円
 関係会社出資金 △1.4億円

【財務活動CF】

短期借入金 5.7億円
 長期借入金返済・社債償還 △13.9億円
 配当金支払 △2.9億円

説明内容

1. 当社グループの概要
2. 2011年3月期 連結決算
3. 2012年3月期 業績見通し
4. 商品ユニット別概要
5. 更なる成長に向けて
6. 結び

東日本大震災の影響

【震災の影響】

- ・当社グループへの直接的な被害なし
- ・当社製品需要の被災による影響は限定的
- ・一部原料の調達確保に対する懸念
- ・電力供給不足の懸念

【当社の対応】

- ・調達先の拡大、代替原料利用による原料確保
 - ・電力事情に応じた柔軟な生産体制による生産量確保
- ⇒供給責任を果たすことで、復興を支援

2012年3月期 事業環境と当社の取り組み

【事業環境】

- 上期は景気の停滞が懸念されるものの、下期には、復興需要等により回復に向かうと想定
- LCD関連の需要は、下期には回復するものの通期では前年と同水準と想定
- 中国市場は、引き続き堅調に推移すると想定

【当社の取り組み】

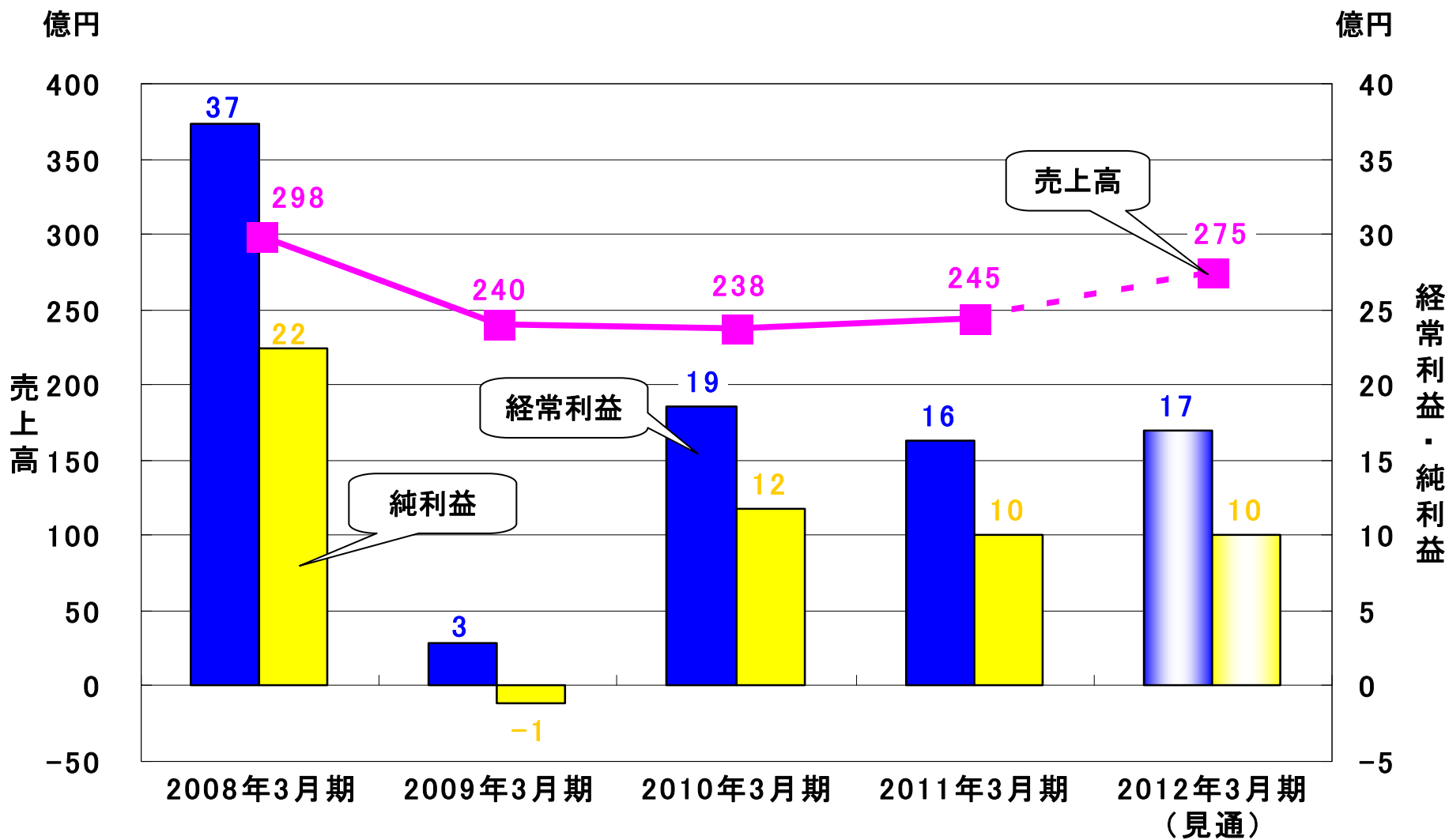
- 既存事業
 - ・新製品の上市による販売拡大と生産性向上による収益確保
- 海外事業展開
 - ・中国、東南アジア市場での粘着剤、加工製品の事業規模拡大
- 新規事業
 - ・資源の重点配分による早期立ち上げ

2012年度3月期 連結業績予想

(百万円)

	2012年3月期	2011年3月期	増減
売上高	27,500	24,458	3,042
営業利益	1,800	1,706	94
経常利益	1,700	1,634	66
当期純利益	1,000	1,001	△1

売上高・経常利益・純利益の推移

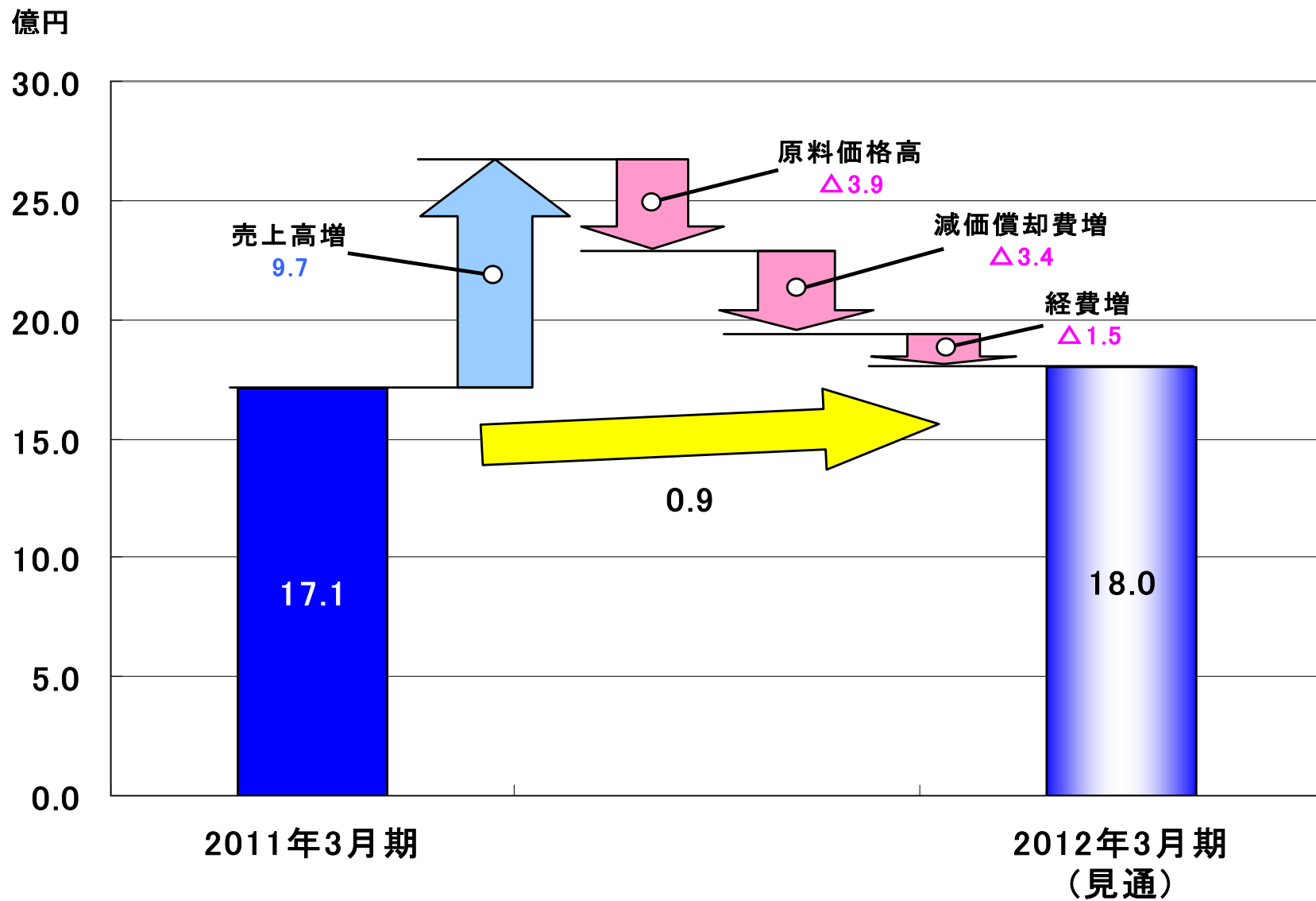


2012年度3月期 セグメント別売上高

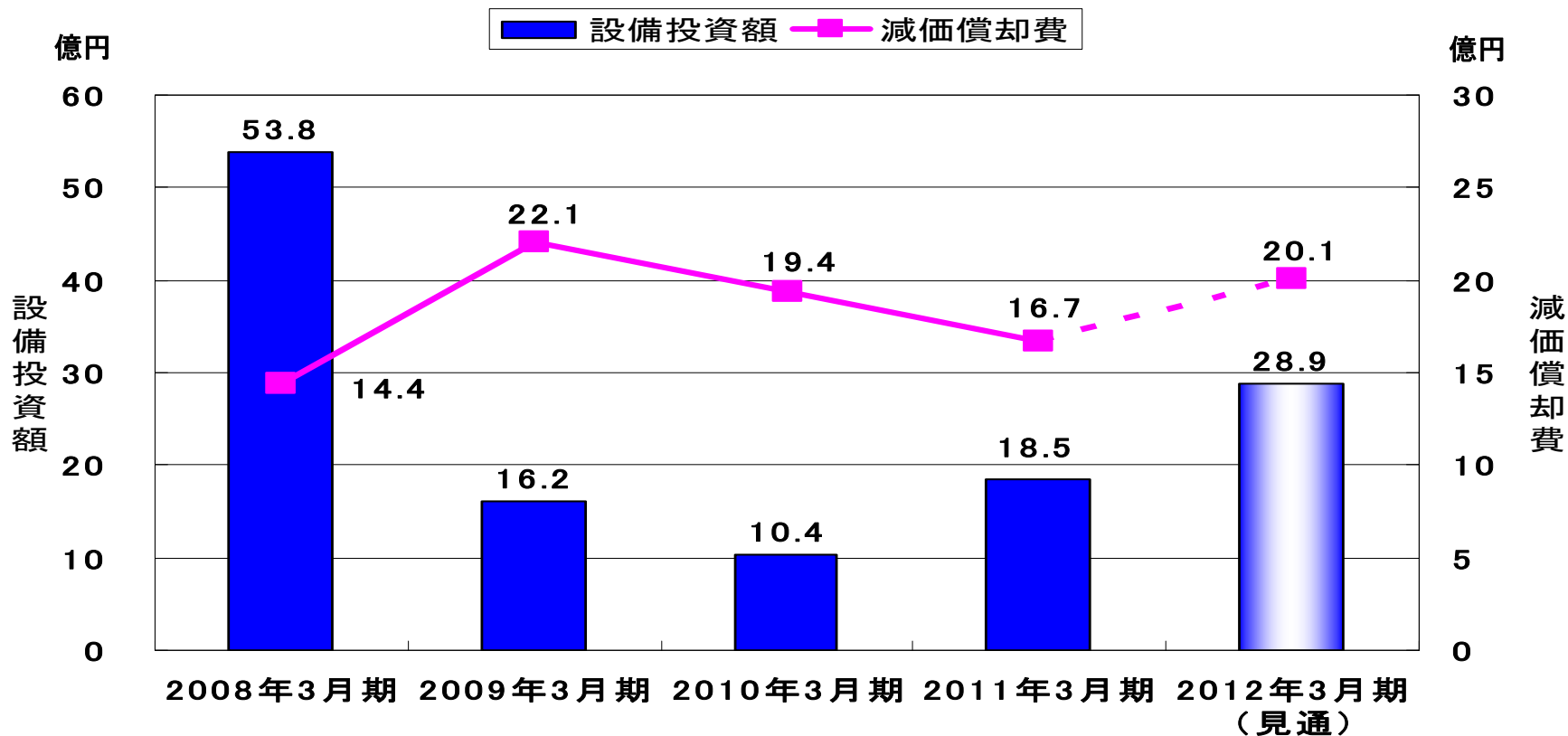
(百万円)

	2012年3月期	2011年3月期	増減	%
ケミカルズ	24,200	22,014	2,186	9.9
粘着剤	12,800	12,370	430	3.5
微粉体	2,200	1,962	238	12.1
特殊機能材	3,800	3,656	144	3.9
加工製品	5,400	4,025	1,375	34.2
装置システム	3,300	2,443	857	35.1

2012年度3月期 営業利益分析



設備投資・減価償却費



【2011年3月期実績】

・SCAsia建屋・設備	6億円
・合理化、安全・環境・品質対策他	8億円
・新規事業関連	2億円

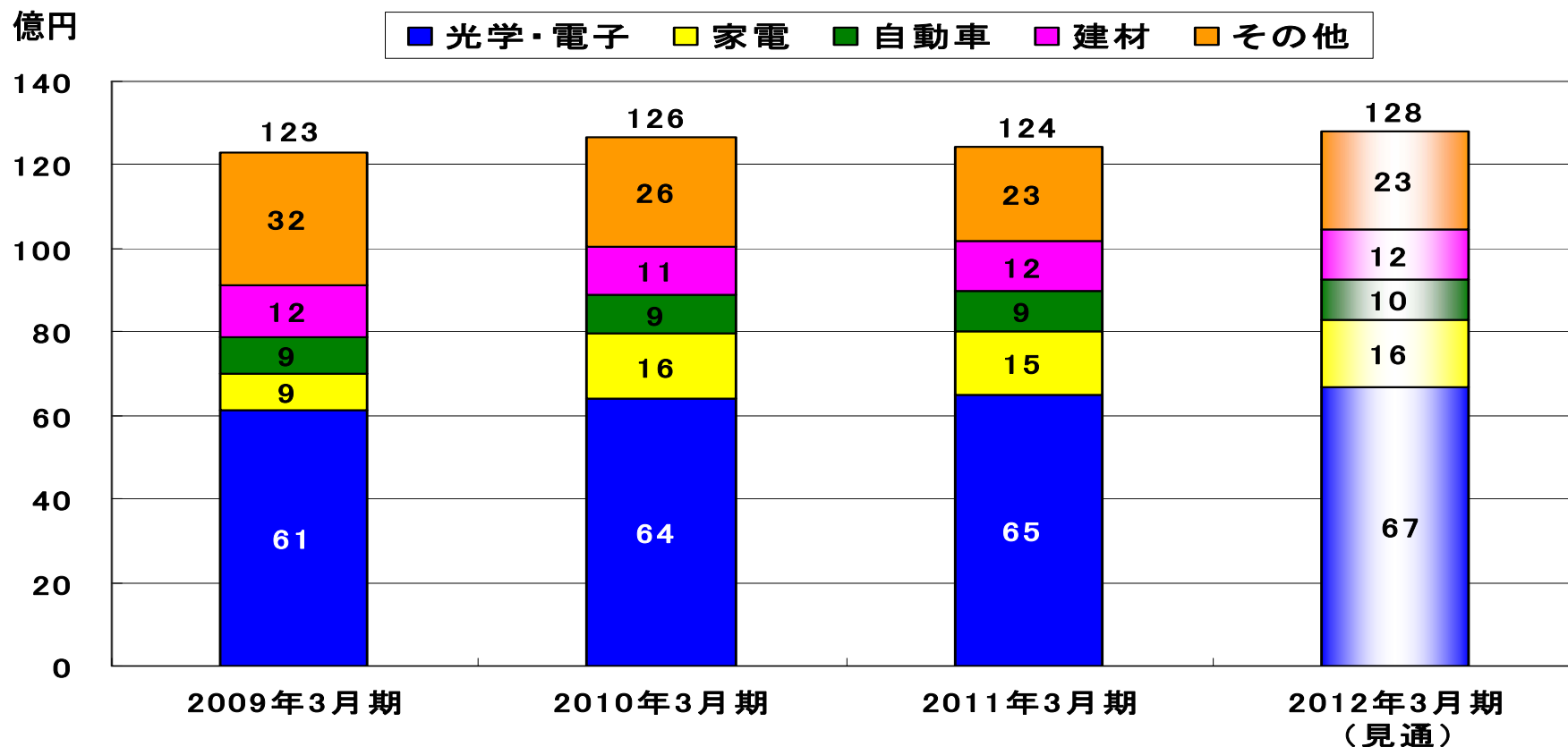
【2012年3月期見通】

・新規事業関連	8億円
・中国粘着剤新事業会社 (投資予定額の1/2)	5億円
・合理化、安全・環境・品質対策他	10億円

説明内容

1. 当社グループの概要
2. 2011年3月期 連結決算
3. 2012年3月期 業績見通し
4. 商品ユニット別概要
5. 更なる成長に向けて
6. 結び

商品ユニット別概要（粘着剤）



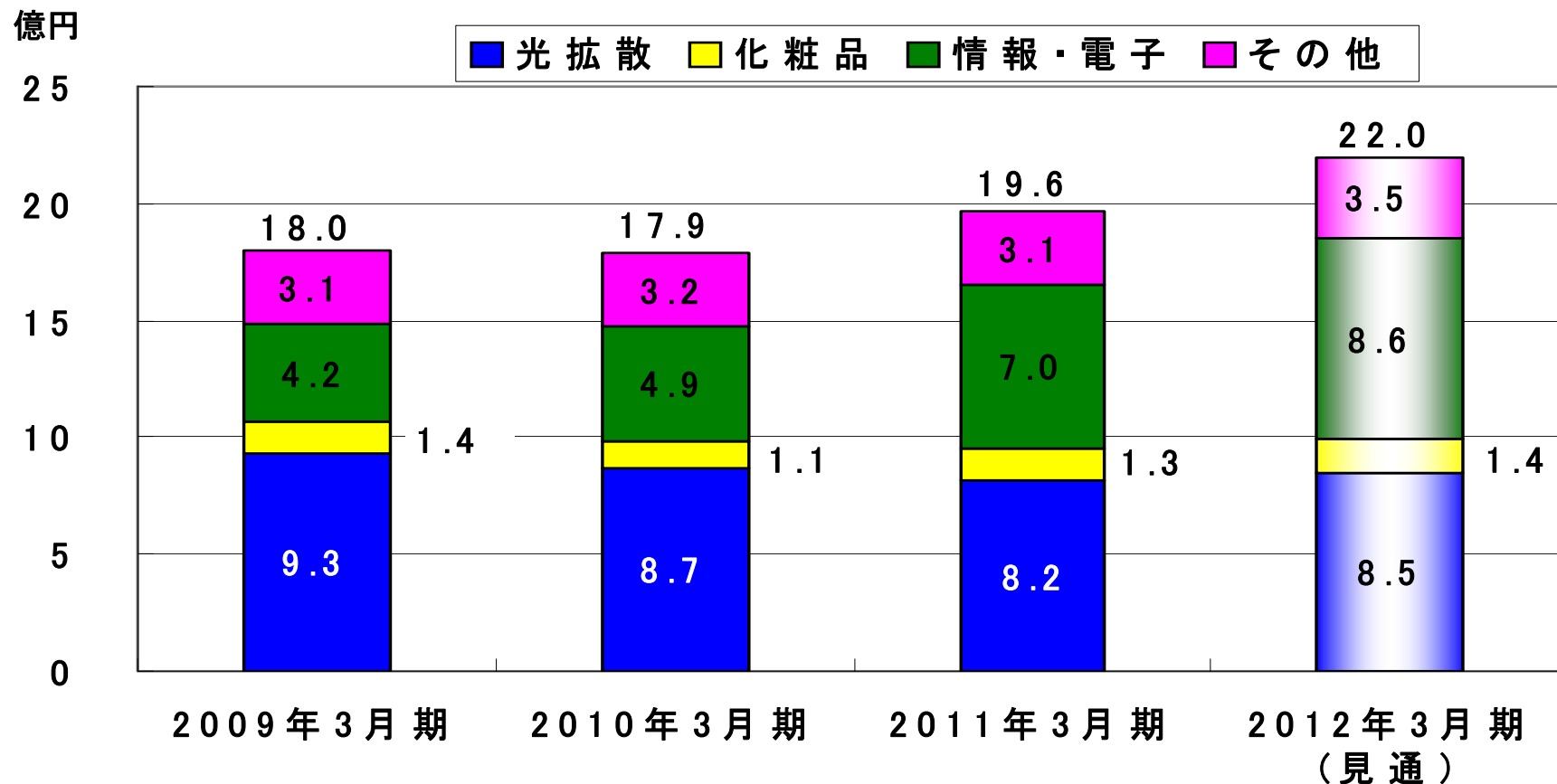
【2011年3月期実績】

- ・LCD用途の販売は、第2四半期以降、在庫調整の影響から低調

【2012年3月期見通】

- ・LCD用途の需要は、下期回復も通期で前期並
- ・高濃度型粘着剤の販売拡大

商品ユニット別概要（微粉体）



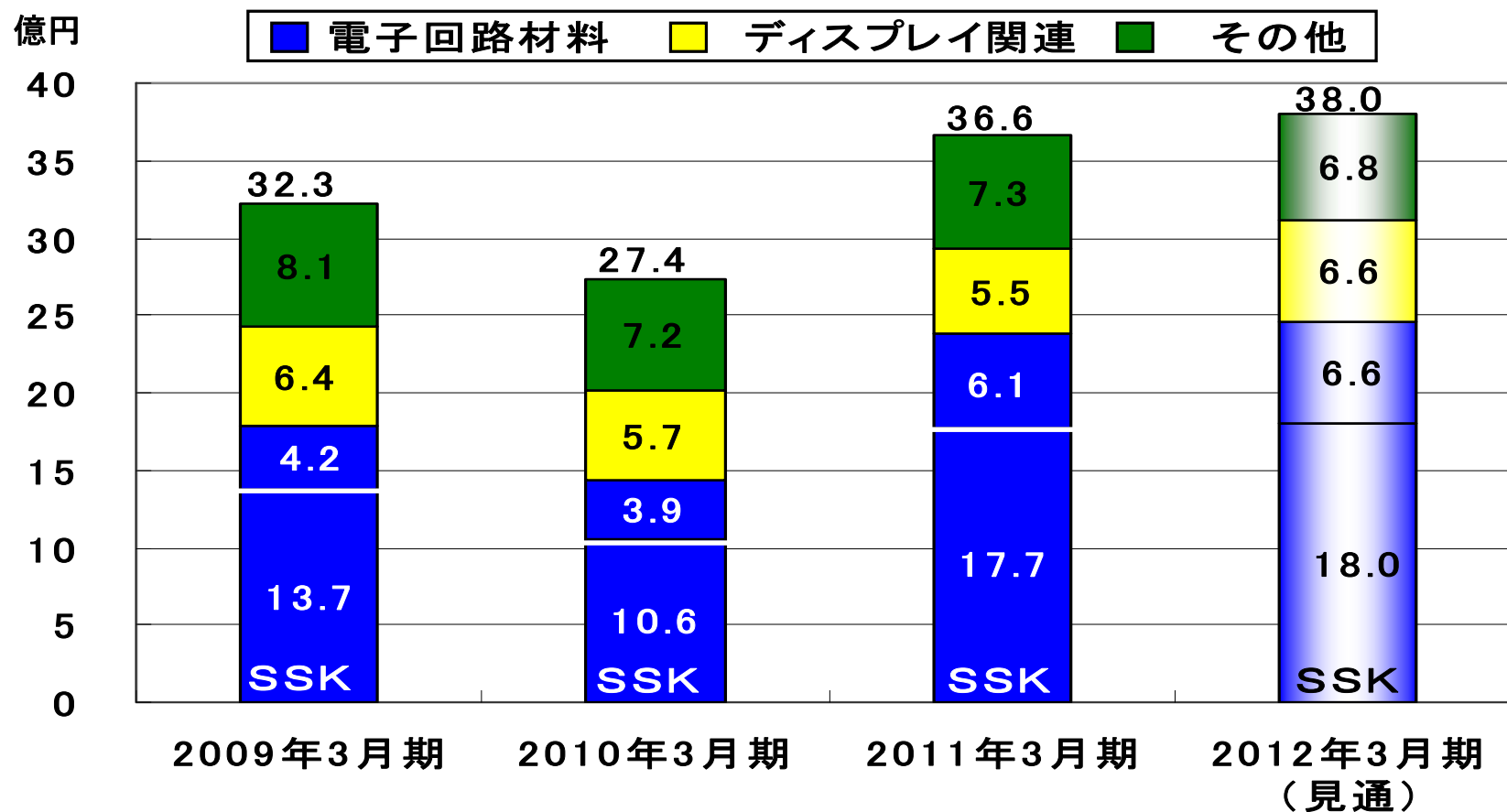
【2011年3月期実績】

- ・電子材料用途の販売堅調
- ・光拡散用途の販売は低調

【2012年3月期見通】

- ・情報・電子の需要は引き続き堅調
- ・光拡散用途の需要は微増

商品ユニット別概要（特殊機能材）



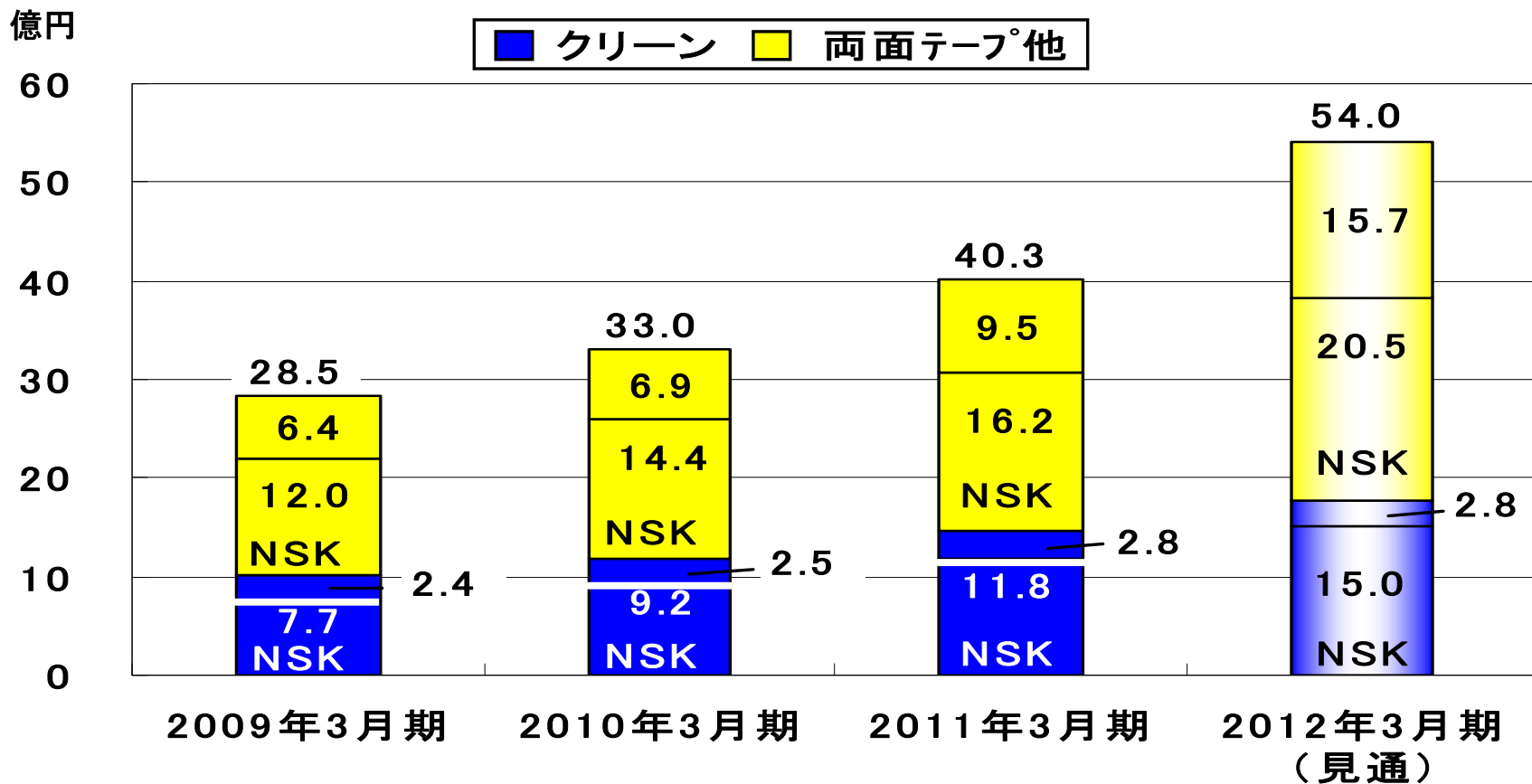
【2011年3月期実績】

・電子回路材料用途の販売数量増

【2012年3月期見通】

・電子回路材料用途の販売微増

商品ユニット別概要（加工製品）



【2011年3月期実績】

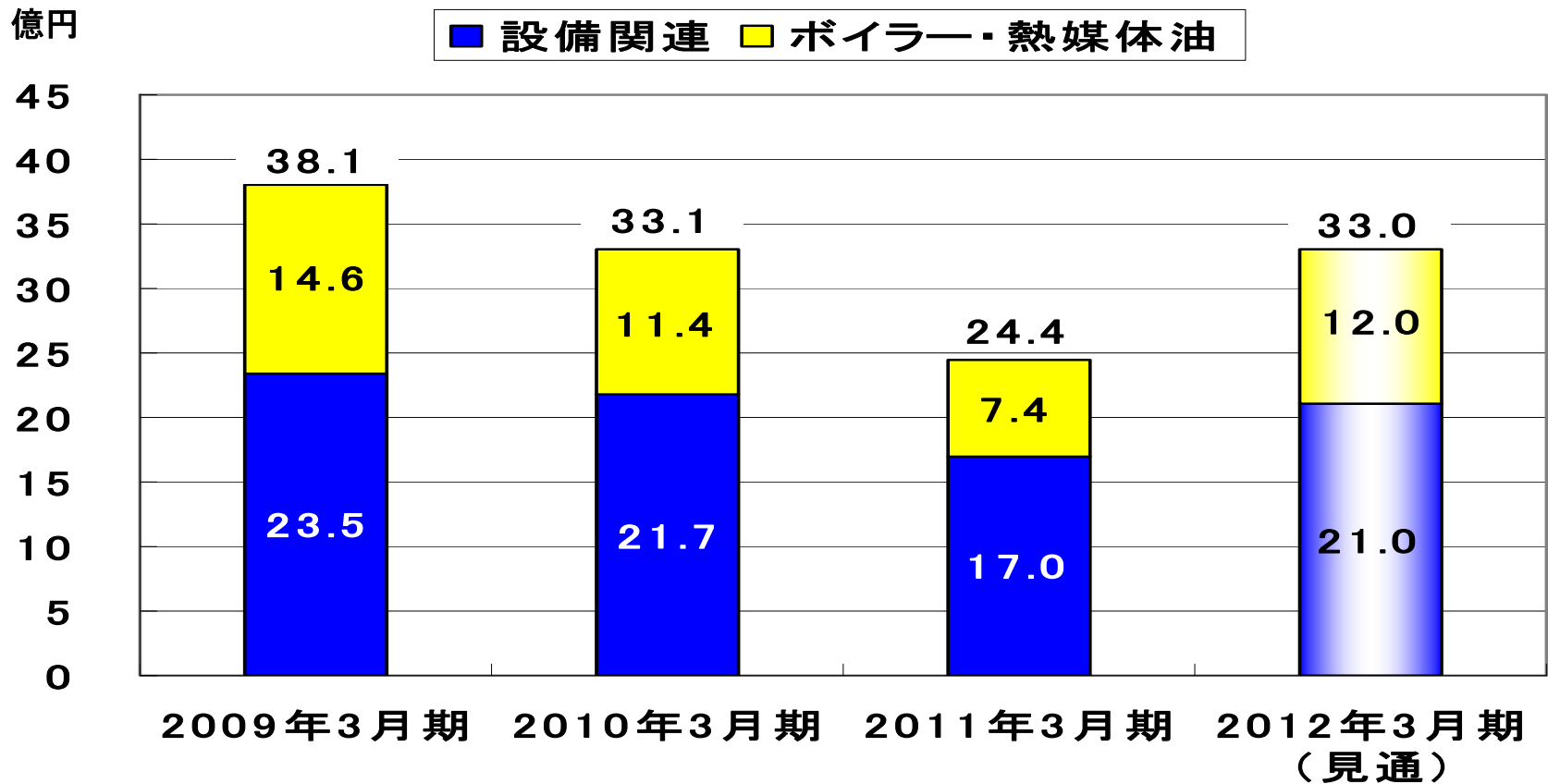
・中国市場におけるクリーン、両面テープ°の販売好調

【2012年3月期見通】

・クリーン、両面テープ°の販売拡大
 ・無溶剤テープ°の販売拡大



商品ユニット別概要（装置システム）



【2011年3月期実績】

・設備投資の冷え込みにより減収

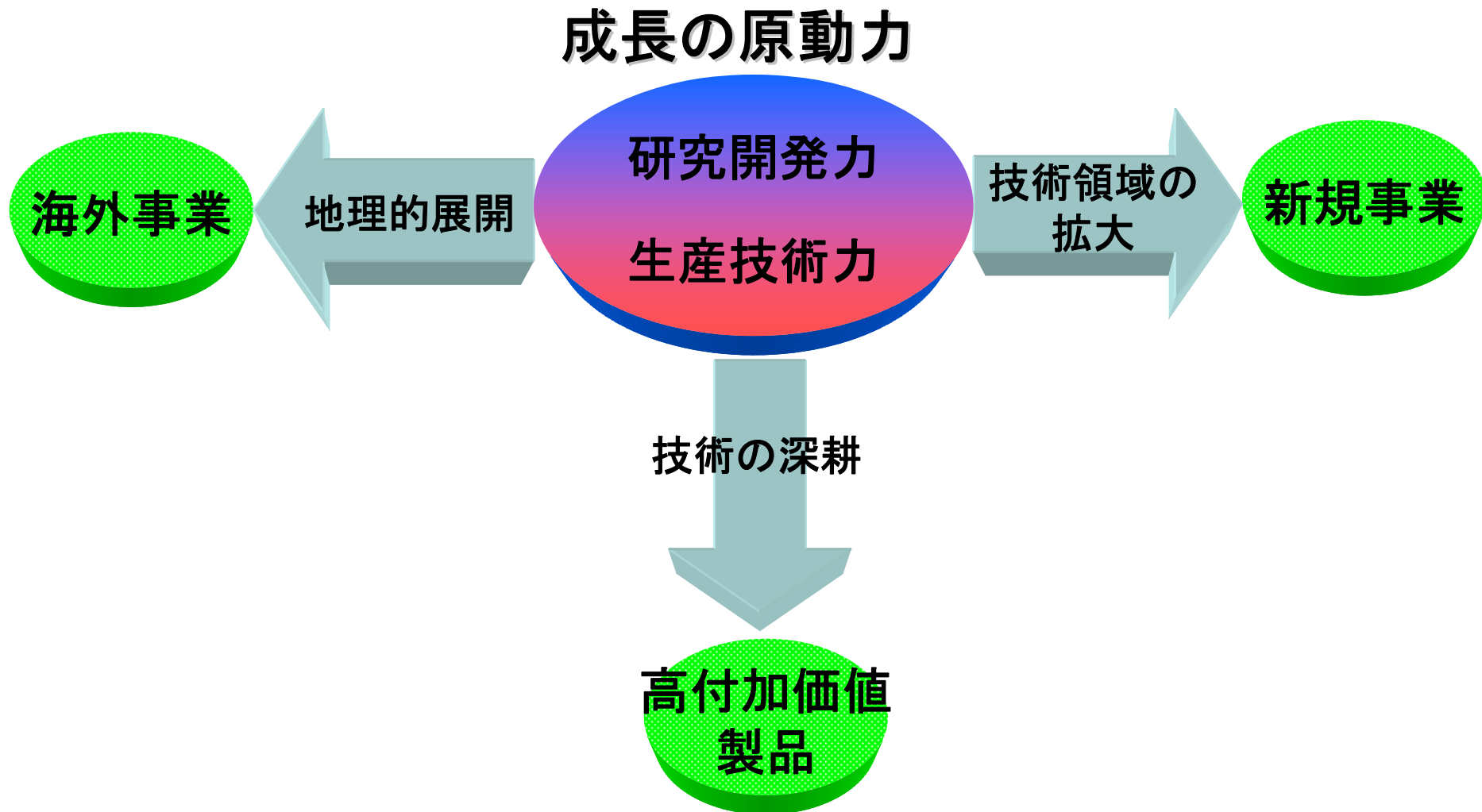
【2012年3月期見通】

・引き続き厳しい事業環境の中、受注獲得

説明内容

1. 当社グループの概要
2. 2011年3月期 連結決算
3. 2012年3月期 業績見通し
4. 商品ユニット別概要
5. 更なる成長に向けて
6. 結び

成長のための方策



高付加価値製品（環境配慮型製品）の販売拡大

無溶剤型粘着テープ

特長

- ・ 環境負荷の高い有機溶剤を使用せず生産可能
- ・ 肉厚なテープの製造が可能（1mm厚程度）

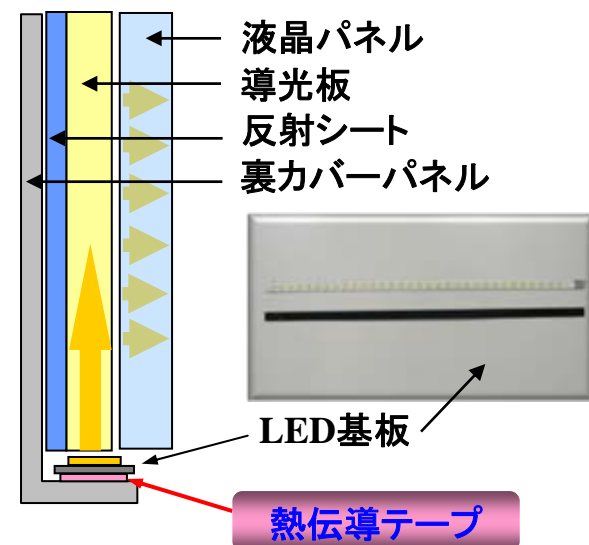
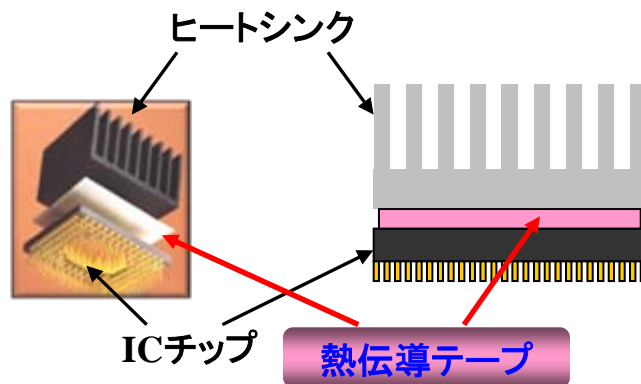
用途

- ・ 携帯電話用（防水）
- ・ 電子基板用（放熱）
- ・ LED-TV用（放熱）

熱伝導テープ

使用例（ICチップ放熱用）

使用例（LED放熱用）



高濃度型粘着剤

特長

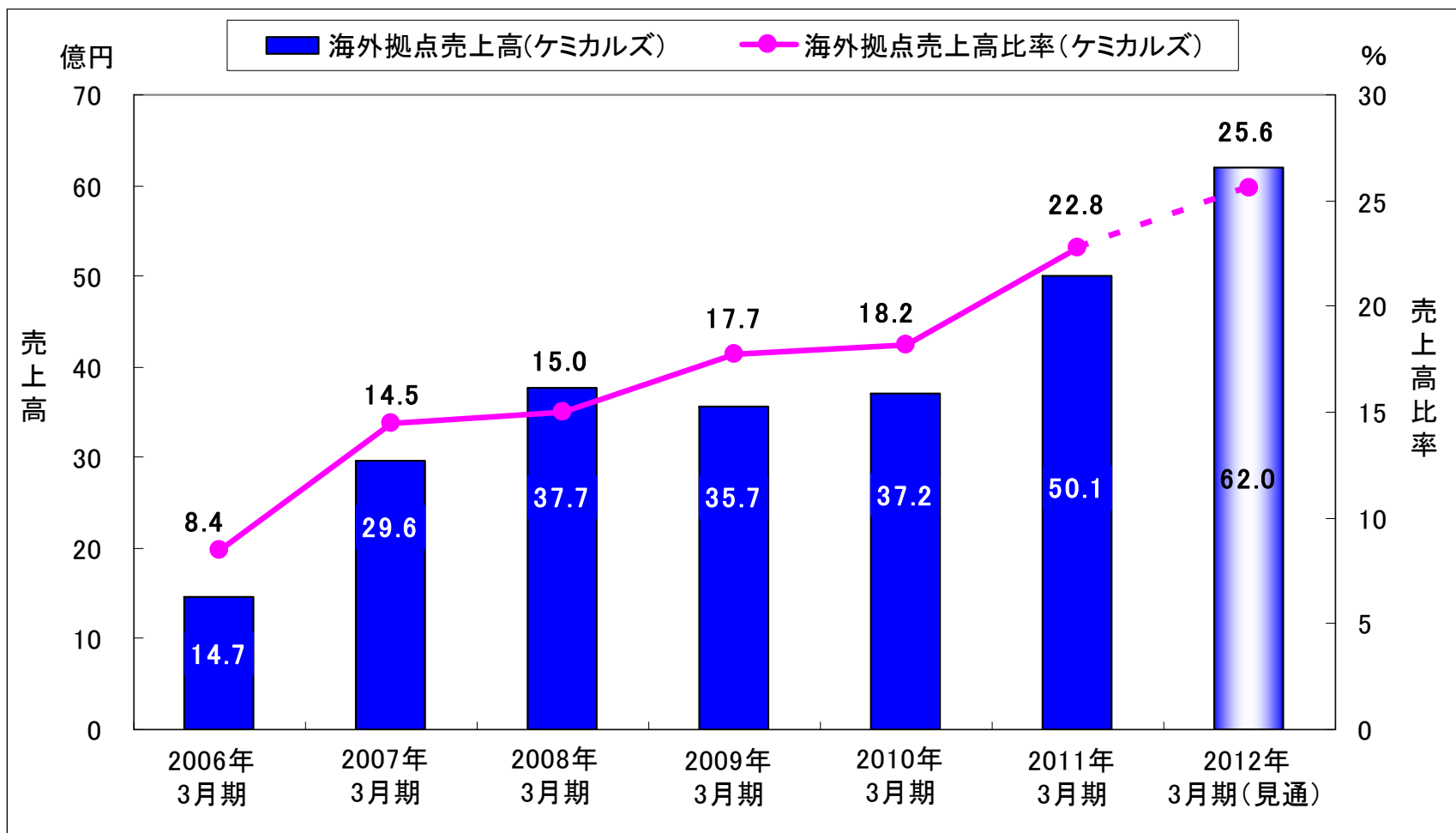
- ・ 有効樹脂成分を高濃度化し、有機溶剤使用量を削減

用途

- ・ 液晶ディスプレイのフィルム貼り合せ等

海外事業の積極的展開

海外拠点売上高推移(ケミカルズ)



新規事業の早期立ち上げ

ナノインプリント(NIP)用フィルムモールド

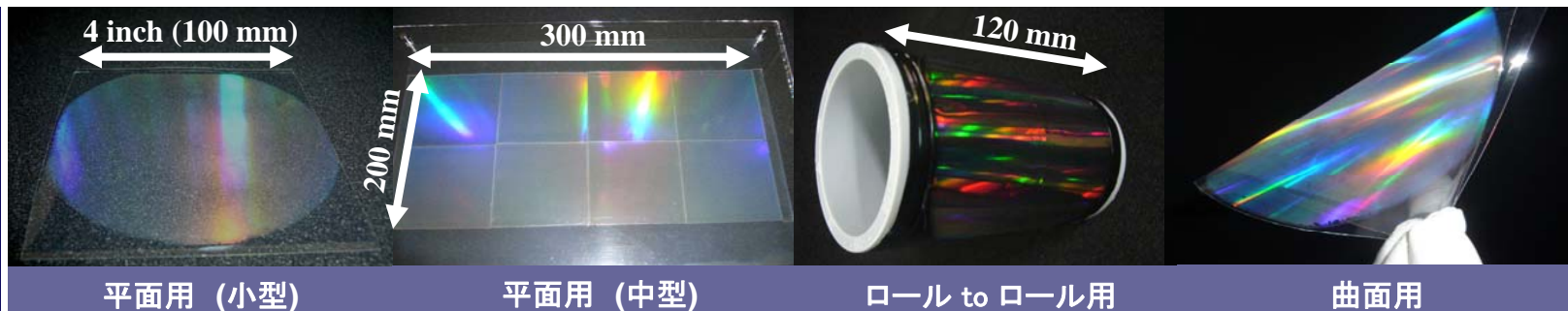
特長

1. 平面、曲面、凹凸面への転写可能
2. 安価
3. 量産化に好適

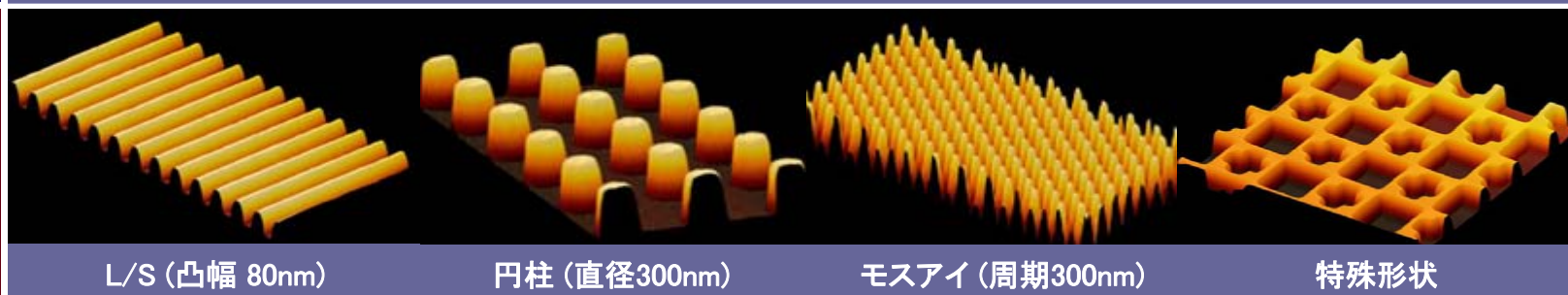
本製品を用いて製造可能な商品例

1. LED (光取り出し効果)
2. 光学シート (反射防止効果)
3. 太陽電池 (光閉じ込め効果)

モールド外形



モールド表面形状



新規事業の早期立ち上げ

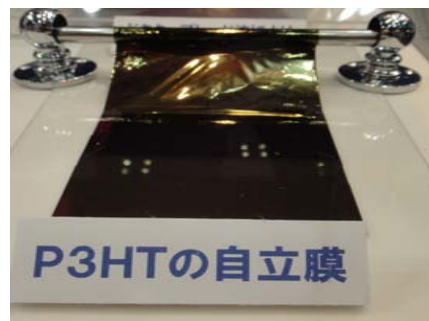
有機太陽電池用材料

○ 色素増感型(DSSC)や有機薄膜型太陽電池(OPV)用の材料開発

- ・有機増感色素 : 商品名「MKシリーズ」
 - ・導電性ポリマー:
 - ・有機半導体ポリマー:
- } 商品名「ベラゾール」



固体型DSSC



フィルム化できた
OPV用有機半導体

導電性ポリマー、有機半導体ポリマーは、
⇒有機TFT、有機LED、有機EL用材料、帯電防止用に用途展開

新規事業の早期立ち上げ

電子ペーパー用 2色粒子

2色粒子



用途

ポスター、電子看板、標識



直径0.07mm



書き換え



反転

新規事業の早期立ち上げ

新事業棟の新設

ナノインプリント事業・太陽電池材料事業・電子ペーパー用粒子事業の
事業化を推進

所在地：狭山事業所内

完成予定：2011年12月



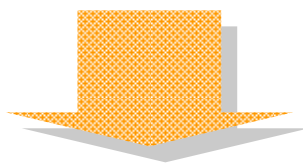
イメージ図

説明内容

1. 当社グループの概要
2. 2011年3月期 連結決算
3. 2012年3月期 業績見通し
4. 商品ユニット別概要
5. 更なる成長に向けて
6. 結び

2012年3月期の取り組み

1. 既存事業の収益力強化
2. 中国・東南アジア市場での事業拡大
3. 新規事業の早期立ち上げ
4. 事業活動を通じての復興支援



厳しい事業環境においても
収益確保と将来の成長に向けた基盤強化を図る

ご注意

本資料中の予想は、決算発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る決算発表日現在における仮定を前提としているため、実際の業績は、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。